

アサヒホールディングス株式会社

2023年3月期 第3四半期決算説明資料

2023.1.31

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



I. 2023年3月期 第3四半期決算

(2022年4月~2022年12月)

Financial Results for Q3 FY2023.3

II. 参考資料

Appendix

単位：億円

	2022/3期	2023/3期		2023/3期	
	3Q	3Q	前期比 増減	通期	前期比 増減
	実績	実績		予想	
売上収益	1,445	2,058	613	2,700	776
営業利益	193	175	△18	240	△24
営業利益率	13.4%	8.5%	△4.9%	8.9%	△4.9%
税引前利益	193	144	△49	226	△38
当期利益※1	136	102	△34	156	△31
設備投資	45	34	△12	65	△18
減価償却費	20	25	5	30	3

※1 親会社の所有者に帰属する当期利益

貴金属事業

- 貴金属リサイクル分野の回収量は第2四半期比減少。宝飾分野で大口取引先からの回収量が減少したこと、触媒分野では自動車生産の低迷に加え、円安等の影響があったこと、エレクトロニクス分野でも一部電子部品分野の製品需要が減少したことが主要因。前年同期比では回収量は増加。
- 北米精錬分野は、製品加工・販売などが好調

分野	事業環境
デンタル	感染症対策継続による患者数制限は続いており、代替製品の浸透とあわせ、回収量の減少傾向は継続
宝飾	買取系は大口取引先からの回収量が減少した一方で、製造系は回収量横ばい
触媒	国内は円安と相場下落の影響を受け回収量が減少、海外は韓国触媒メーカーからの回収量が増加
エレクトロニクス	EV関連及び産業用途関連は好調を維持、スマートフォン・ICT関連需要が大きく落込み回収量が減少
北米精錬	製品加工・販売などの取引が好調

環境保全事業

- 教育関連、医療関連からの回収量は増加傾向にあるが、建設関連の回収量は減少傾向。自動車関連は依然として低迷。

業界	事業環境
教育・研究機関	教育機関からの回収量は前年同期と比較し増加傾向
建設	資材価格の高騰もあり住宅着工件数は減少傾向。関連の廃棄物発生量も減少傾向
自動車	半導体・部品不足による工場稼働減が続いており、関連部品工場からの廃棄物回収量は低迷
エレクトロニクス	取引先である部品メーカー群が発注元の在庫調整を受け、廃棄物排出量が減少傾向
医療	コロナ感染者数が再び拡大傾向となり宿泊療養施設が増加、関連医療廃棄物の回収量も再び増加傾向
化学	化学工業の生産指数は前年に比べ若干の増加基調

※2023年第3四半期の状況を第2四半期との比較を中心に記載

貴金属リサイクル分野(国内・アジア)

2023/3期3Q実績

宝飾分野からの回収量が増加し、それに伴い販売量が増加したため売上収益に大きく貢献。
一方で、相対的に利益率の高いデンタル分野及び触媒分野の構成比率が低下したこと、坂東新工場の設立に伴う減価償却費の増加や燃料価格の上昇等により経費が増加したことの影響あり。

→増収・減益

北米精錬分野

2023/3期3Q実績

精錬を土台とした各種付加価値取引が堅調に推移。
一方、コロナ禍の影響により、前年度は前々年度と合わせて2年分相当の利益貢献があったストックテイクが、今年度は平準化。

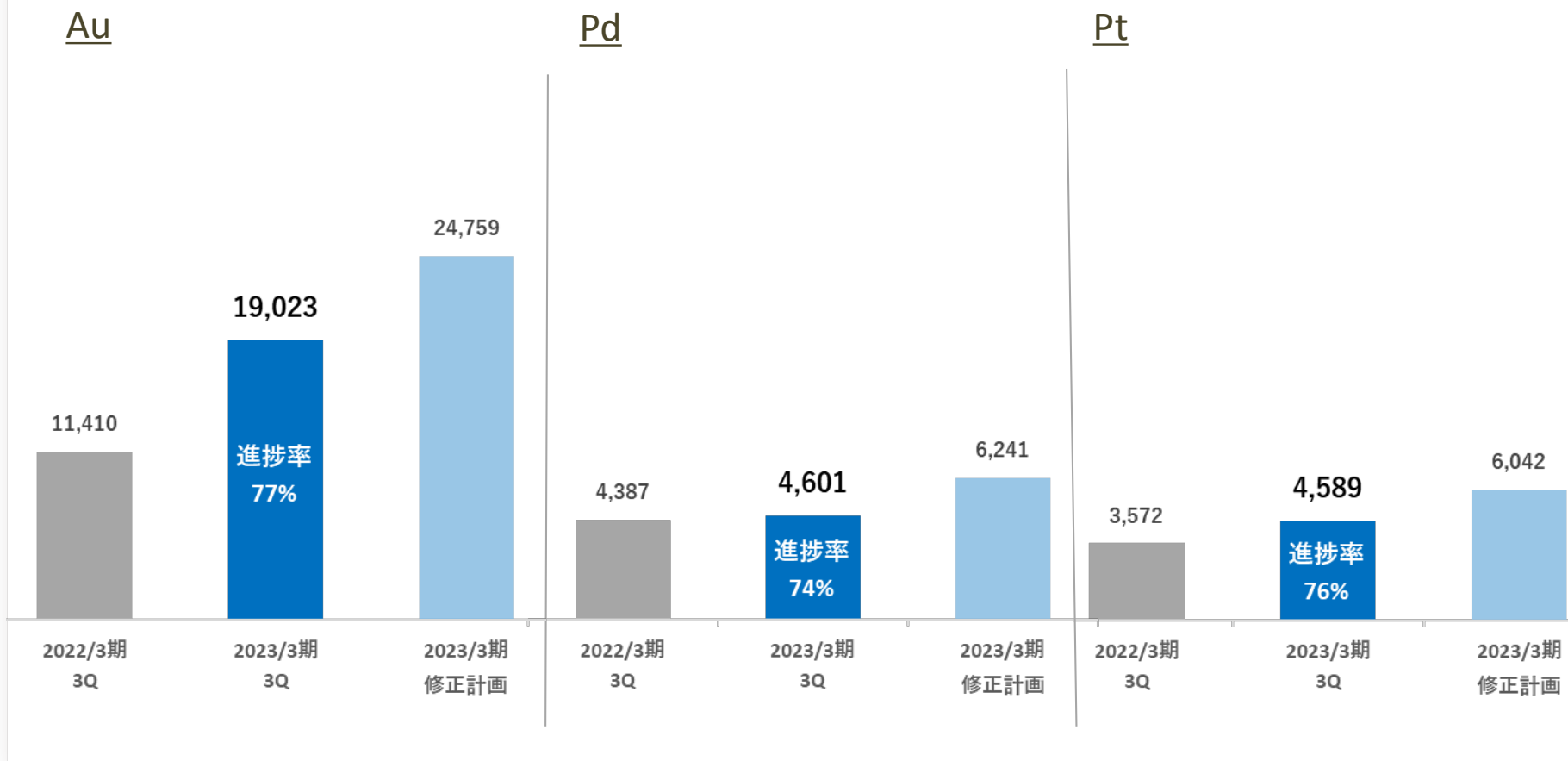
→増収・減益

(単位：億円)

貴金属	2022/3期3Q	2023/3期3Q		2023/3期 通期	
	実績	実績	前期比増減	予想	前期比増減
売上収益	1,310	1,924	615	2,510	771
営業利益	194	174	△ 20	242	△ 24
利益率	14.8%	9.0%	△ 5.8%	9.6%	△ 5.7%

- 宝飾分野からの回収量増加が、全貴金属分野の回収量増加に貢献
- 宝飾分野及び触媒分野からのパラジウムの回収量増加が、デンタル分野の減少を補う

単位：kg



環境保全事業

2023/3期3Q実績

工業生産活動の緩やかな回復傾向を受け、当社の産業廃棄物の処理量も増加し、施設の稼働状況も高い水準を維持。

昨年5月にJWガラスリサイクルを譲渡した影響（2022/3期実績：売上収益8.2億円、営業利益1.4億円）により、売上収益は前年同期比で減収となった一方で、営業利益は当該影響をカバーし更に上回る利益を確保。

→減収・増益

(単位：億円)

環境	2022/3期3Q	2023/3期3Q		2023/3期 通期	
	実績	実績	前期比増減	予想	前期比増減
売上収益	135	134	△ 1	190	4
営業利益	27	33	6	39	2
利益率	20.1%	24.8%	4.7%	20.5%	0.5%

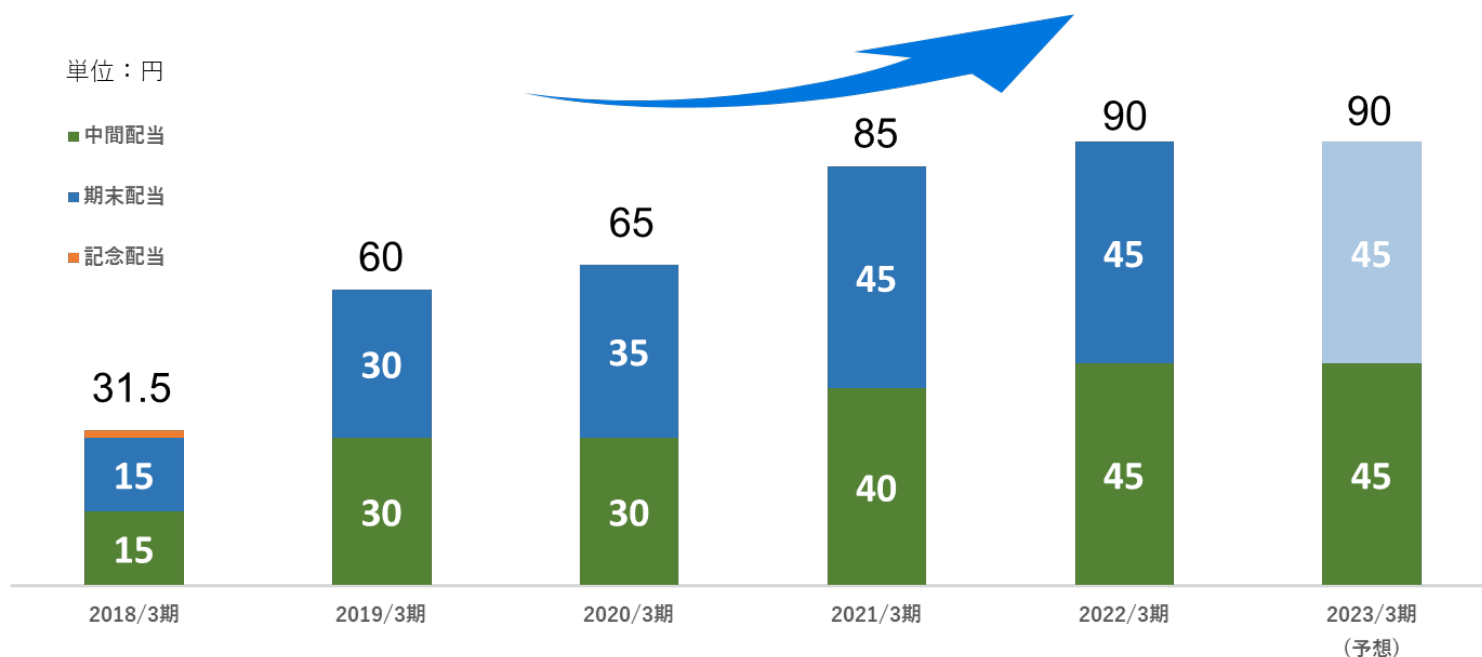
単位：億円

	2022年 3月末	2022年 12月末	増減	備考
流動資産	2,418	3,120	702	
営業債権	1,514	2,109	594	営業債権残高および増減額の大部分は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権。
棚卸資産	634	649	15	棚卸資産残高および増減額の大部分は貴金属リサイクル事業の貴金属含有原材料/仕掛品/製品。買取時に貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、品質劣化リスクともに極めて限定的。
その他	269	362	93	
非流動資産	566	494	△ 72	
資産計	2,984	3,614	630	
負債	1,933	2,541	608	
社債及び借入金	1,509	2,252	743	大部分は北米事業の前渡し取引等の借入金。原料入荷後に借入で前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、貸倒リスクともに極めて限定的。
その他	423	288	△ 135	
資本	1,051	1,074	22	
資本・負債計	2,984	3,614	630	

単位：億円

	2023/3期 3Q	備考
営業活動によるキャッシュフロー	74	
棚卸資産の増減額	△ 15	増減額の大部分は貴金属リサイクル事業の 貴金属含有原材料/仕掛品/製品 。貴金属含有量を分析してから購入し、同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 価格変動リスク、品質劣化リスクともに極めて限定的 。
営業債権及び その他の債権の増減額	△ 630	増減額の内、△613億円は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権の増減額。原料入荷後に借入で前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて貴金属価格をヘッジしているため、 価格変動リスク、貸倒リスクともに極めて限定的 。
営業債務及び その他の債務等の増減額	611	増減額の内、568億円は北米事業の前渡し取引等による借入金の増減額。借入金の増減額の内、北米事業の前渡し取引等による借入金の増減額は、財務CFではなく、営業CFの営業債権の増減額として表示。
その他	108	
投資活動によるキャッシュフロー	△ 24	
財務活動によるキャッシュフロー	△ 47	
借入金の増減	17	
社債の発行による収入	49	
配当金の支払い額	△ 70	
その他	△ 44	
換算差額	30	
現預金の増減額	33	

基本方針：成長戦略のための設備投資やM&Aに必要な内部留保充実を図りながら、
 配当性向40%を目処とし、現在の年間配当水準から目減りさせず、安定的に配当を継続する
 （上場以来過去一度も減配なし、期末配当は昨年同様一株当たり45円を予想）



1株当たり利益(円)	135.39	114.07	125.12	326.90	231.27	201.52
配当性向(%)	23.3	52.6	52.0	26.0	38.9	44.7

※2021年4月1日に1:2の株式分割を実施しており、2020年度までの1株当たり配当金および1株当たり利益は分割後のベースに換算して表示



I. 2023年3月期 第3四半期決算

(2022年4月~2022年12月)

Financial Results for Q3 FY2023

II. **参考資料**

Appendix

- 持分法適用関連会社であるフジ医療器の株式を昨年12月に全部譲渡
→本件譲渡に伴う営業利益への影響は無いが、株式譲渡損失17.8億円を「その他の費用」に計上

フジ医療器について

単位：百万円

所在地	大阪市中央区農人橋一丁目1番22号	資本金	30
代表者の役職・氏名	代表取締役 安永 誠司	売上高 (2021年12月期)	17,846
事業内容	健康・美容機器の製造、販売、輸出入	当期純利益 (2021年12月期)	720

譲渡内容について

譲渡先企業	Johnson Health Tech. Co., Ltd.		
譲渡株式数	120,000株	譲渡価額	非公開
異動前の所有株式数	120,000株	異動後の所有株式数	0株

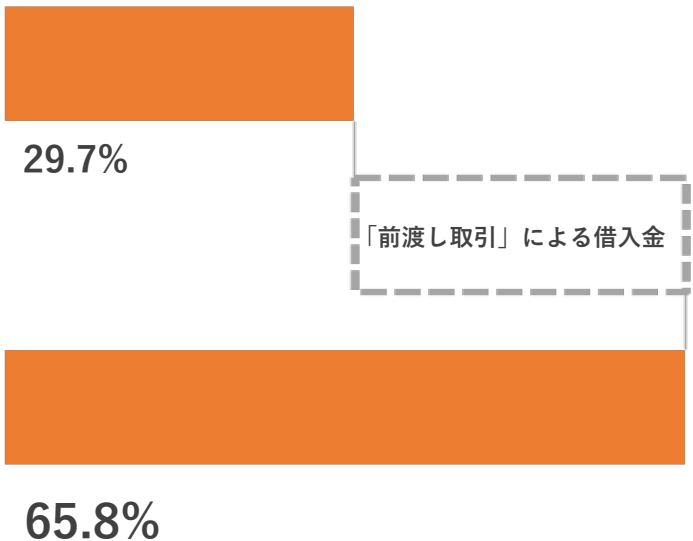
財政状態

(単位:億円)

	2022年 12月末	北米事業を除いた 場合
流動資産	3,120	1,137
非流動資産	494	494
資産計	3,614	1,632
負債	2,541	558
資本	1,074	1,074
資本・負債計	3,614	1,632

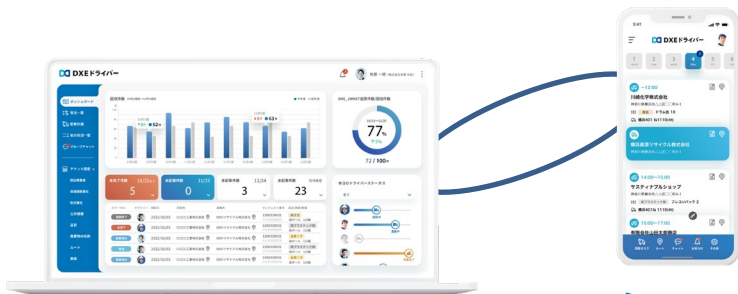
自己資本比率

2022年12月末



- 金融サービスに必要な大規模資金を低金利で調達
- 精錬と金融は不可分的であり、北米事業の拡大のために必要
- 金利上昇時も、北米事業の収益性は概ね不変

- 産業廃棄物の排出から処理までをデジタル化や環境負荷の削減に取り組み、低炭素で持続的な社会の実現に貢献
- 2023年予定のメジャーバージョンアップにより廃棄物処理業者まで販売先を拡大



2022年6月～

DXE 処理

Phase01 DXE処理の提供を開始

代行起票や受注管理の機能により、収集運搬業者の業務効率化を実現。

電子 manifests 代行起票

電子 manifests の自動起票

配車・ドライバーアプリとの連携

2023年～

DXE Station

Phase02 DXE Stationをリリース

回収管理から搬入管理まで、全廃棄物処理業者をシームレスに繋げる。

排出・取運・処分の
ワークフロー

電子契約
コンプライアンスチェ
ック

売上・請求管理

電子 manifests
代行起票

電子 manifests
自動起票

配車・ドライバーアプリ
との連携

2025年～

DXE Station

Phase03 CO2排出量の抑制に寄与

CO2排出量の自動計算によるカーボンニュートラルへの貢献

CO2排出量の計算

事業者レーティング&
マッチング

カーボンクレジット対応

排出・取運・処分の
ワークフロー

電子契約
コンプライアンスチェ
ック

売上・請求管理

電子 manifests
代行起票

電子 manifests
自動起票

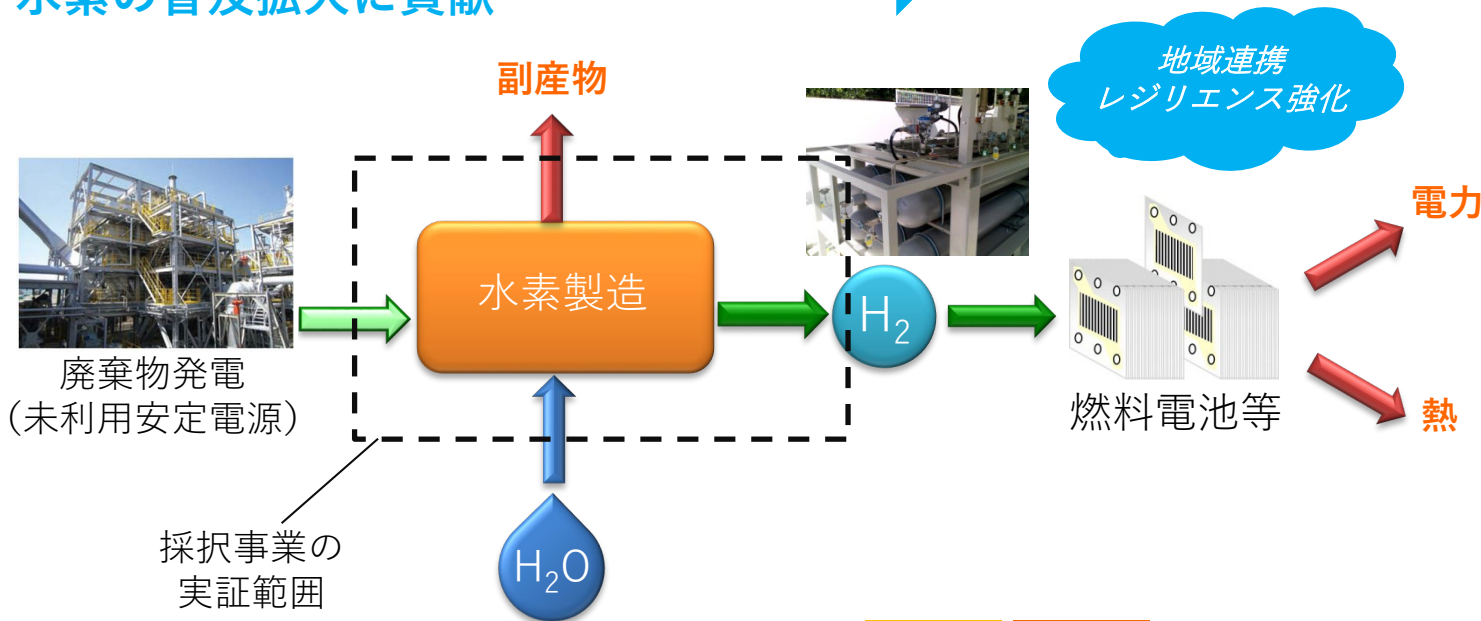
配車・ドライバーアプリ
との連携

- アサヒプリテック(株)は、環境省の「地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業」において、エフシー開発株式会社、株式会社X-Scientia、三井住友信託銀行株式会社と共同で、「グリーン水素サプライチェーン構築に向けたシステム開発」を補助事業として実施中
- 2022年12月に北九州工場へ水素製造装置の導入が完了し、2023年1月より技術実証試験を開始
- 水素エネルギーの地産地商に向けて、地元自治体や企業との連携可能性を検討中

副産物の販売により事業性を確保し
水素の普及拡大に貢献



CO₂排出削減



<p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>	<p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p>	<p>11 住み続けられる まちづくりを</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>
----------------------------------	-------------------------------	------------------------------	---------------------------	-----------------------------

投資目的：事業拡大・利益率向上
 第9次中期経営計画（3年間）投資総額：227億円



坂東工場

✓ アジア最大級の最先端リサイクル工場



北米事業
 (精錬&倉庫設備)

✓ 倉庫事業の立上げ&既存設備強化



横浜焼却炉*イメージ

✓ 東日本地域の廃棄物を大型焼却拠点

単位：億円

	2022/3期		2023/3期		備考
	中期 経営計画	実績	中期 経営計画	修正計画	
貴金属事業	63	77	32	58	—
国内	47	40	19	22	水素サプライチェーン構築への投資として約3億円
海外	16	36	13	36	21年度に完成予定施設の期ずれと追加投資
環境保全事業	8	7	22	7	焼却プロセスの見直しによる投資計画の一部見直し
総計	71	83	54	65	3か年の投資総額に変更はない

- 原材料回収から製品化までの工程を集約
- 最先端IoT技術の導入により、生産効率を向上
- BCM（事業継続マネジメント）の観点で優れた工業生産地域
- 建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）において、最高評価とZEB Ready*認証を取得



© BANDO CITY.

*BELS（ベルス）建築物省エネルギー性能表示制度…新築・既存の建築物において、省エネ性能を第三者評価機関が評価し認定する制度です。
国土交通省建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）の概要より引用 <https://www.mlit.go.jp/common/001031559.pdf>

ご参考：坂東市強靱化計画
2011年の東日本大震災の教訓を受けた坂東市が作成した「坂東市強靱化計画」にて
BCMやサプライチェーンの観点から「目標5 経済活動を機能不全に陥らせない」を目標に掲示。
坂東市国土強靱化計画より一部引用 <https://www.city.bando.lg.jp/page/page006456.html>

• JPX日経インデックス400

資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成される、JPX日経インデックス400に3年連続採用



• FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

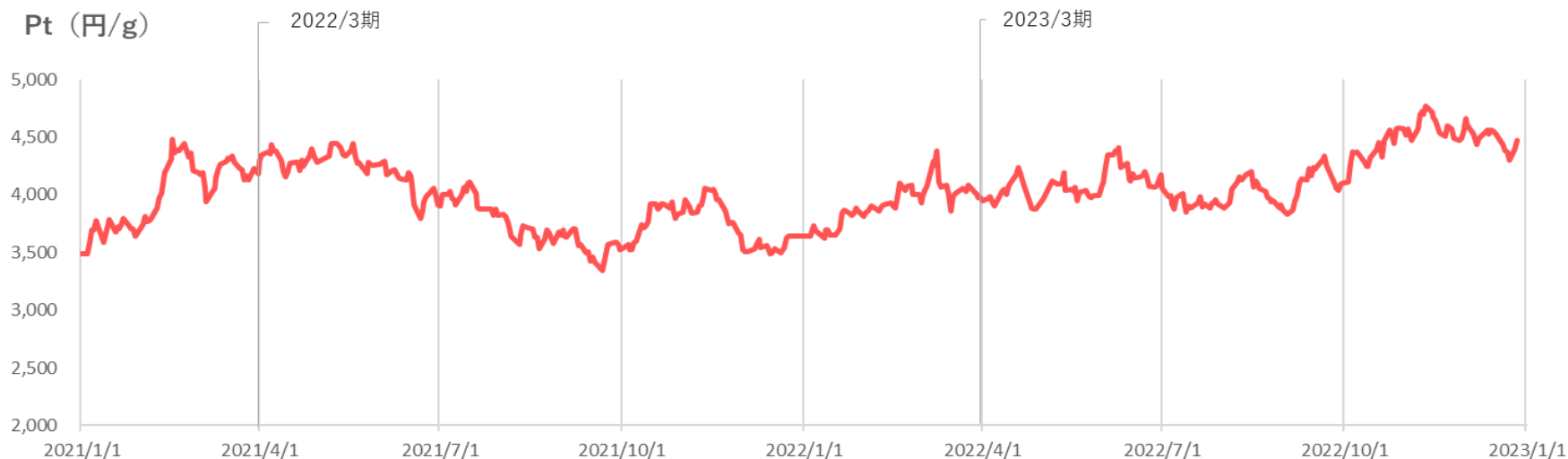
各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス（ESG）の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するFTSE Blossom Japan Sector Relative Index（GPIFの運用のベンチマーク）に採用



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index







単位：円

貴金属 価格 (1gあたり)	2022/3期	2023/3期	
	3Q 期中 平均価格	3Q 期中 平均価格	増減
金	6,587	7,885	1,299
パラジウム	7,127	8,999	1,872
プラチナ	3,732	4,492	761

◆参照元
 金…山元建値
 パラジウム…日経安値
 プラチナ…小売価格（税抜）